

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定 ・ 実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価(3月6日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	(2月26日実施)	成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	・自立と社会参加をめざし、各教育部門、各学部において、それぞれが系統性のある教育課程の編成や組織的な授業改善に取り組む。	①教育課程の改善・適切な編成及び専門性の向上と継承にむけて、授業改善に継続的に取り組み、校内研究、研修を実施していく。 ②ICT機器の活用・授業づくり・授業改善の継続、視線入力機器の推進等に積極的に取り組む。	①個別教育計画を踏まえた授業実践に取組み、教育課程の検証と改善・適切な編成を行う。校内研究、研修を推進する。 ②ICTを活用した授業づくり、授業改善の継続、ネットワークを活用した協働的な学びの環境整備、視線入力機器の活用と管理等に取り組む。	①児童・生徒一人ひとりのニーズと課題を共有し、教職員の共通理解と組織的な研究、授業実践をし、指導・評価の徹底と授業改善に取り組むことができたか。 ②児童・生徒一人ひとりに適したICTを活用した授業づくり、ICT教材を含む教材教具(視線入力機器を含む)の活用と改善を進められたか	①個別教育計画を踏まえ、学習指導要領を基に系統性を意識し、授業改善に取り組んだ。また、教育課程編成では教科別の指導等に基づき枠組みを整理した ②ICT機器の利用等が促進され、児童生徒の興味関心を引き出す教材作りに継続して取り組み、校舎間のリモート授業も継続して取り組むことができた。	①今年度の成果を基盤とし、引き続き系統性のある授業改善に取り組んでいく。教育課程編成では、枠組み等の詳細を全体周知し、継続して実施していくことが課題である。 ②ICT機器を有効に活用した授業づくりの推進を図る。1人1台端末となる次年度に向けて、授業を中心に教育活動全体で研究研修の推進が必要である。	(アンケート肯定的回答率)()内は昨年度の% 全体回収率50.7%(55.3%) ①小学部から高等部までのつながりを大切にした取組みをしている。75%(72%) ②教材教具等、教員間で情報を共有活用して授業実践している。80%(81%)(中・高生徒アンケート) ・学校生活や授業の設問では、楽しいが91%(93%)、好きな授業があると85%(85%)が回答(学校運営協議会・学校評価部会) ・1人1台端末となる次年度に向けて、準備会を立ち上げ、教職員研修を計画しているとのこと。児童生徒一人ひとりにどのように支援していくのか課題を整理し、取り組んでほしい。	①教育課程編成では編成の手引等に基づき枠組みを整理し、カリキュラム・マネジメントが実施しやすくなった。 ②ICT機器を有効に活用した授業づくりが推進された。1人1台端末となる次年度に向けて、教育活動全体で研究研修の推進が必要である。	①全教職員に詳細を周知し、全学部でカリキュラム・マネジメントを継続して実施していくことが必要である。 ②端末は高等部でChromebook等小中学部ではiPad等となるため、各課題を整理し、継続的に組織的に研究や教職員研修等を実施していく。
2 児童・生徒 指導・支援	・児童・生徒一人ひとりの実態や支援ニーズ、生活年齢に応じた指導・支援を組織的、計画的に取り組む。	①児童・生徒一人ひとりの実態や支援ニーズ、生活年齢を十分に踏まえた上で、アセスメントを充実させ、指導・支援に取り組むとともに個別教育計画の改善及び活用を充実させる。 ②医療的ケアを必要とする児童・生徒の通学支援の充実を図る。	①専門職、相談担当等と連携し、より良い指導体制の構築をめざす。自立活動、医療的ケア等、特別支援教育の専門性の継承と向上に取り組むとともに個別教育計画の改善及び活用を充実させる。 ②医療的ケアを必要とする児童・生徒の通学支援の充実を図るために、関係諸機関と連携し、一つひとつ丁寧に取り組む。	①専門職、相談担当を含めたチームで情報を共有し、個別教育計画に反映して指導支援に活かすことができたか。専門性の継承と向上に取り組むことができたか。 ②通学支援の充実を図るために、関係諸機関と連携し、一つひとつ丁寧に取り組むことができたか。	①児童生徒、保護者のニーズや相談に対し、支援連携部や専門職、関係諸機関等と連携し、的確な情報共有・支援をし、課題解決に向けて進めることができた。また、校内研究として個別教育計画の新書式を作成した。 ②医療的ケアを必要とする児童・生徒の通学支援については説明会を開催し、個別に対応し丁寧に確認しながら取り組んだ。	①課題解決に向け、丁寧に取り組む必要のあるケースもあり、引き続き支援連携部や専門職、関係諸機関等と連携を図り、今年度の取り組みをベースに個別教育計画に反映し、より効果的な指導ができるよう取り組んでいく。 ②引き続き関係機関、保護者と連携しながら、丁寧に一つひとつ確認しながら進めていく。	保護者アンケート肯定的回答率) ①必要に応じて専門職等と連携して、児童生徒のニーズに応じた支援に取り組んでいる。81%(83%) ②個別教育計画はわかりやすい内容となっている。96%(96%)(中・高生徒アンケート) ・先生はあなたの話や悩みを聞いてくれたと98%(96%)が回答。(学校運営協議会・学校評価部会) ・支援連携部や専門職、関係諸機関等と連携し、的確な情報共有・支援をしているとのこと。以前は訓練的な支援が多かったが、今は専門職がおり、発達段階に合わせての支援となっている。切れ目ない支援、引継ぎが大切である。	①校内研究において個別教育計画の新書式を作成。作成の過程で児童生徒の課題・特性を整理できた。学習指導への反映では具体的な検討に至らなかったため、継続して検討していく。 ②医療的ケア児の通学支援は個別に対応し丁寧に取り組んだ。	①新書式は自立活動を主軸にしたものになっている。児童生徒の課題を新書式で明らかにしたうえで、学習指導要領を踏まえた日々の学習指導と連携して運用していくことが求められる。 ②引き続き関係機関、保護者と連携して丁寧に取り組んでいく
3 進路指導・ 支援	・将来の一人ひとりの生活の充実をめざし、卒業後の進路を視野に入れ、障害の特性や発達段階に応じた進路指導・支援を行う。	①児童・生徒の自立と社会参加及び将来を見据え、発達段階など個に応じた一貫性のあるキャリア教育の推進及びシチズンシップ教育の充実を図る。	①児童・生徒の自立と社会参加及び将来を見据え、発達段階など個に応じた一貫性のあるキャリア教育の推進及びシチズンシップ教育の充実を図る。	①保護者、進路担当及び専門職等と連携し、個々の特性や発達段階に応じた支援を実施することができたか。また、キャリア教育及びシチズンシップ教育の充実を図ることができたか。	①キャリア教育の全体計画作成に取り組んだ。知的高等部ではキャリア・パスポートの様式の導入を進め、他学部では個別教育計画に示した。導入により生徒自身の目標等を把握でき、保護者、進路担当とも共有できた。また、シチズンシップ教育の枠組みを再共有し、授業で取り組むことができた。	①今後各学部の意見を精査し、全体計画の中に取り込み、学校全体としての系統性を持たせる。キャリア・パスポートは継続して活用できるように、使いやすさ等、課題点を整理し、改定していく必要がある。また、授業計画等を整理し、より効果的なシチズンシップ教育を推進していく。	(保護者アンケート肯定的回答率) ①生活や社会的スキルの獲得に向け、人や施設・場面を効果的に活用した校外学習や日常の授業に取り組んでいる。82%(81%) ②保護者対象の進路先の見学会や福祉制度説明会等は参考になっている。73%(74%)(中・高生徒アンケート) 職業、作業や進路の授業は役に立つ95%(97%)、授業で卒業後の進路先や生活がわかると83%(88%)が回答。(学校運営協議会・学校評価部会) ・キャリア・パスポートの導入について、知的高等部ではファイル形式で積み上げていく教材として、キャリア・パスポートを導入した。他学部は個別教育計画の中で保護者と確認しながら取り組んでいる。課題点を整理し、改定していく必要がある。	①知的高等部ではファイル形式で積み上げていく教材として、キャリア・パスポートを導入した。他学部は個別教育計画の中で保護者と確認しながら取り組んでいる。課題点を整理し、改定していく必要がある。	①年度末に知的障害教育部門のキャリア教育全体計画が提案された。今後、肢体不自由教育部門での全体計画の検討、キャリア・パスポートの継続活用での検証等でキャリア教育の推進を図っていく。

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価(3月6日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	(2月26日実施)	成果と課題	改善方策等
		②保護者に対する確かな進路情報や福祉制度を提供、周知しそのニーズに応えとともに理解啓発を図る。	②進路及び福祉に関する情報を説明会、事業所見学、個別面談等で保護者、教職員にわかりやすく提供し、理解啓発を図る。	②説明会、事業所見学、個別面談等で適切な情報提供ができたか。また、教職員にも研修等の機会を提供していくことができたか。	②各学部の面談等において、卒業後の進路や児童生徒像について、保護者に理解啓発を図った。進路関係の説明会は、各学年学部にとつて的確な時期に実施することができ、資料等を工夫しわかりやすい説明会を実施した。	②各担任と進路担当が連携し、児童生徒の将来を意識した指導支援を計画しながら、今後も継続して取り組む。ミニ研修会等を設定し、各担任が進路の知識を深め、保護者にも情報提供し、工夫して取り組んでいく。	部は個別教育計画の中で保護者と確認しながら取り組んでいるとの説明があった。これからも児童生徒、保護者にとって良いものになるよう改定してほしい。 ・進路決定について、高等部1年から始め、見学や実習を通して本人と保護者の希望を尊重しつつ、実習後の評価等を受けて授業等で改善を図っている。保護者等との意見の相違については、対話を積み重ねているとの説明があった。引き続き丁寧に取り組んでほしい。	②今年度は的確な時期に面談、説明会、事業所見学等が実施でき、資料等の内容を分かりやすく改善することができた。教職員に対しての研修等を充実していくことが課題	②保護者に対しての説明会等を更に充実させるとともに、教職員に対しても事業所見学会や福祉の事業形態等に関するミニ研修会等を設定し、進路の知識を深めていく。
4 地域等との協働	・他者理解と多様性を認め合う共生社会の実現に向け、障害のある児童・生徒の理解啓発を図るため、地域への発信や、地域と連携した教育活動を充実させる。	①コミュニティ・スクールの確実な運営と地域と連携した切れ目ない支援の充実を図る。また、「小・中学校との「人的交流」による地域における支援教育の充実」の推進に取り組む。 ②三つの学びの場が一体となり、地域の中での豊かな学びと、地域に根指した安心できる生活の実現に向けて取り組む。	①コミュニティ・スクールの確実な運営と地域と連携した切れ目ない支援の充実を図るために関係諸機関との綿密な連携を図る。また、「小・中学校との「人的交流」による地域における支援教育の充実」を推進するために、初年度の取組みを丁寧に行う。 ②小田原校舎、湯河原校舎、大井分教室の三つの学びの場が一体となるとともに、それぞれの地域において担当者が中心となり、校内の諸課題の整理をし、地域や関係諸機関等と連携を図りながら、丁寧に推進する。	①地域と連携した教育活動の推進(コミュニティ・スクールの確実な運営、切れ目ない支援の充実)するために校外及び保護者の理解推進を図ることができたか。 ②三つの学びの場が一体となるとともに、それぞれの地域において校内の諸課題の整理をし、地域や関係諸機関等と連携を図り、一つひとつ丁寧に推進することができたか。	①コミュニティ・スクールを通して、地域自治会役員が避難訓練を見学する等、地域との連携が進んだ。また「小・中学校との「人的交流」による地域における支援教育の充実」について、初年度の取組みを丁寧に推進することができた。 ②小田原校舎と湯河原校舎において双方向の行事等で合同学習を行うことができた。また、各校舎・分教室において、地域の小中高との交流等、地域と連携した授業等も実施することができた。	①交流活動等、地域と連携した教育活動を引き続き推進するとともに、より充実したものになるように再検討していく。「小・中学校との「人的交流」による地域における支援教育の充実」について、引き続き丁寧に推進していく。 ②引き続き、三つの学びの場が一体となるような交流を模索し、推進していく。また、これまでの地域とのつながりを大切にしつつ、現状の変化等に合わせ、再検討しつつ、関係諸機関との連携を深めていく。	(保護者アンケート肯定的回答率) ①学校は、地域の「支援教育」の充実・推進のために、役割を果たしている。56%(64%)。地域との交流学習は計画的に行われている56%(54%)。 ②地域に向けた研修会や活動は、児童・生徒の理解啓発につながっている。50%(53%)。学校の教育活動を、ホームページや連携部だより等で保護者や地域の方にわかりやすく伝えている。71%(76%)。 (学校運営協議会・学校評価部会) ・「小・中学校との「人的交流」による地域における支援教育の充実」を推進するにあたり、通常級でのインクルーシブ教育をどう進めるかがこの研究の目的との説明があった。通常級の児童生徒の授業参加に対する困り感が、小中学校の先生方から出されている。支援級だけでなく、通常級への支援も進めてほしい。 ・医療的ケアのある児童が、地域の学校に就学する。地域の学校での医療的ケアの相談も行っていると聞く。連携しながら、地域センター的機能を発揮していただきたい。	①コミュニティ・スクールを通して防災等に関して地域との連携が進んだ。また人的交流による研究協力校での居住地交流ケースにおいて授業実践に係ることができた。今後も丁寧に推進していく。 ②各校舎双方向で直接交流した合同学習。リモートでの交流学习等が実施できた。地域との連携授業等も実施できており、今後も継続する。	①小・中学校との「人的交流」による地域における支援教育の充実について、2年目となる。引き続き、研究協力校と連携し、地域の学校と相互理解を図る。校内においても、研修会等で理解を深め、学校全体で取り組んでいく。 ②双方向での交流合同学習を推進するとともに、地域と連携した授業についても更に推進する。
5 学校管理 学校運営	・児童・生徒の安全と健康を守り、防災教育等に取り組み、良好な教育環境の整備を推進する。 ・不祥事防止の徹底と当事者意識を持ち、良質の同僚性を構築し、教師力アップを目指す。また、教職員の働き方改革の実現をめざす。	①児童・生徒の安全と健康を守り、校内防災・地域防災の充実・連携に向け、迅速に、組織的、継続的に取り組んでいく。基本的な衛生管理を継続し実態に応じた感染予防を行う。 ②不祥事防止会議・研修の実施と意義付けを行い、啓発活動を継続する。また、働き方改革について、事務処理の効率化に向けた取組みを実施する。	①校内防災の充実と地域防災の連携に向け、引き続き迅速に、組織的、継続的に取り組んでいく。感染症予防については、マニュアルの更新を含め、基本的な衛生管理や実態に即した対応を行う。 ②不祥事防止に向けた会議、研修、啓発活動を継続し、同僚性を高め、報告連絡相談に対する意識を高める。また、働き方改革について、事務処理の効率化に向けた取組みを実施する。	①防災対策について、引き続き迅速に、組織的、継続的に取り組むことができたか。感染症予防対策を保護者等の協力を得ながら、学校全体で実施することができたか。 ②事故・不祥事ゼロが達成できたか。また、児童・生徒と向き合う時間を増やすなど教職員一人ひとりが意識しながら働き方改革に取り組むことができたか。	①防災訓練における地域自治会との連携、防火シャッターを下ろす等、より具体的な訓練に取り組み、それにより、新たな課題を明らかにすることができた。また、コロナ5類に移行後も基本的な感染症対策は継続した。 ②事故・不祥事防止では職員一人ひとりが意識して取り組むことができた。また、Teamsのチャット機能による事務連絡、情報共有等の有効活用が進み、会議時間の短縮等を実感でき、働き方改革につながる環境となってきた。	①明らかになった新たな課題に対応しつつ、実施予定を知らせない等、実際の有事の際に近づけた訓練を安全に実施できるように検討していく。また、今年度同様に基本的な感染症対策は継続していく。 ②引き続き事故・不祥事防止ゼロを念頭に置き、同僚性を高め、チームとして一人ひとりが意識して取り組んでいく。また、今後もTeamsのチャット機能を有効活用しつつ、会議等を見直し、効率的に開催できるように工夫していく。	(保護者アンケート肯定的回答率) ①保健室や栄養職員等と情報交換を密に行い、感染症やアレルギー等の未然防止に取り組んでいる。88%(88%)。学校は、防災教育に取り組んでいる。91%(85%)。 ②会計報告や個人情報の収集時に適切に行っている。92%(93%)。職員は、児童・生徒や保護者に対して、コミュニケーションを大切にされた態度で接している。93%(92%)。 (学校運営協議会・学校評価部会) ・コロナ後の学校生活について、校内での交流ができ、友達の様子を見てそれが良い刺激となっている。学校生活を楽しんでいるとの説明があった。引き続き、安心安全な教育環境の整備について推進してほしい。 ・教職員の同僚性を高めるといったことについて、お互いを知り、お互いの人権を尊重し、チーム力を高めることと説明があったが、学校の雰囲気につながっているように思う。出会って知り合ってより良くしていくことが大事であると思う。	①防災訓練における地域自治会との連携、より具体的な防災訓練の実施等の成果とともに、新たな課題が明らかになった。対応について検討していく。 ②引き続き、事故不祥事防止に向け、一人ひとりが意識を高め、Teamsのチャット機能による情報共有等の有効活用により、働き方改革を実感できた。	①新たな課題に対応しつつ、実際の有事の際に近づけた訓練を安全に実施できるように検討していく。また、地域との連携を継続し、充実させていく。 ②チャット機能による情報共有等の有効活用を推進するとともに、引き続き、事務処理の効率化、会議等を見直し、効率的に実施できるように工夫していく。